

# 中国の高齢化の現状と高齢者対策

## 上海市を中心として **その2**

上海大学 東アジア研究センター所長 馬 利中

前号では中国における高齢化の現状を示したが、今回は上海市（以下上海）の高齢者対策について、国の基本指針である五つの「老有」と称されるスローガン、すなわち「老有所養、老有所医、老有所為、老有所学、老有所楽」（高齢期の扶養、医療、社会参加、生涯学習、趣味娯楽を保障する）に沿って紹介する。

### 老有所養(扶養)

「老有所養」は、物質的、精神的の両面で基本的な保障が得られることを指す。基本的な方針としては、社会保障制度を確立すると同時に、家族およびコミュニティの役割を組み合わせることで、高齢者の扶養・ケア問題の解決を目指している。

政府は宣伝・広報活動によって「高齢者を敬うべき」との伝統を強調しており、家族が依然として高齢者の扶養・ケアの大部分を引き受けているものの、近年この傾向は弱まりつつあり、子どもが家にいないケースが増えて、コミュニティの役割は大きくなってきている。社会保障体系が不完全な現状では、高齢弱者の必要を満たす保障は得られないため、多くの高齢者は住み慣れたコミュニティで暮らしつつけたいと望んでいる。このため、コミュニティによる扶養・ケアのサービスの充実が急がれており、コミュニティを頼みとし、自宅でケアを受けながら老後を送る方式は、中国の都市部において、今後、需要が高まると考えられる。

上海市政府は、1992年から「市民奉仕のプロジェクト」として、3,000近くあるコミュニティで「社区サービスセンター」などの在宅高齢者向けの福祉施設を開設した。そこでは、物品販売車サービスや配食、お手伝いさんなどの紹介、電話料金の納付や小荷物受け取りの代行などを行っており、利用者はホームページやホットラインを通じてこれらのサービスを申し込むことができる。

年金制度については、1994年に「上海市都市部従業員養老保険改革」が始まり、定年退職者向けにはインフレ対策として物価スライド保証制度が設けられて、高齢者の基本的生活を保障するシステムの構築が推進

されている。

一方、農村部では、高齢者の扶養はおもに家族が担っているが、1996年から上海の農村部でも、社会養老保険のテストが始まった。また、一部の農村では「家庭扶養協議書」を親子間で交わし、子どもによる老親扶養を具体化し、老後扶養を保障する試みが行われている。

また、貧困および子どものいない高齢者については、1993年から「特別貧困老人救済基金」により、最低生活保障ライン以下の高齢者に救済金が支給されている。

### 老有所医(医療)

「老有所医」は、疾病予防や、健康回復等の面で保障を与えられ、医療サービスを受けられることを指す。

中国では、都市部と農村部で異なる医療制度が実施されている。都市部では、医療保険から全額給付を受けている高齢者は約60%であるが、加えて13%の高齢者が半額の自己負担で医療を受けている。一方、農村部では、合作医療（農村地域で形成された医療保険制度。その基金は集団の出資、集団と個人の共同出資、個人の出資の3種類がある）を受けている者は、全体の20～30%である。

「老有所医」で最も関心を集めているのは、後期高齢者と要介護高齢者の医療保障とケアの問題である。現在、上海の60歳以上の高齢者のうち、少なくとも50万人近くが日常生活において何らかの看護・ケアを必要としており、そのうち約20万人が認知症で、8万人が一人では生活できない状況にある。

上海には「老人病院」が34カ所あるが、ほかに慢性疾患や老衰などで定期的診療を受ける在宅高齢者を「家庭病床」として扱っており、その数は入院高齢者数の4～5倍にのぼる。

急激な高齢化による医療費の増大などの問題を解決するために、2000年12月から医療改革が実施され、従来の国や市等の職員とその退職者を対象とした国費による「公費医療」と、国有企業の職員・退職者を対象とする企業負担による「労保医療」の二つの医療制度

## 馬利中 (Ma Lizhong)

1957年上海市生まれ。1981年上海外国語大学卒。中国人口情報センター研究員、上海人口情報センター室長。1990～91年日本エイジング総合研究センター研究員、92～96年東邦大学大学院公衆衛生学教室、博士号取得。96～98年上海人口情報センター副所長、98～2002年上海老齡科学センター副所長。2002年より上海大学東アジア研究センター所長。同大学日本語学部長。発表論文は「中国高齡者の健康とケアの日中比較」(『民族衛生』第61巻(3))、「上海年金・医療改革の最新事情」(『AGING』2001春号)など多数。



が一本化された。新たな医療保険制度の基金は、社会一括徴収基金と個人医療口座で構成されているほか、自己負担のしくみも導入し、患者にコスト意識をもたせて、医療費の抑制を図ることを目的としている。

### 老有所為 (社会参加)

「老有所為」は、定年退職後も体力、専門知識、趣味などの能力を生かし、社会活動に参加することを指す。

上海には、経済生産活動に参加している高齡者が約50万人おり、その中には、専門的な知識や技能をもつ者が多い。再就職高齡者の90%は70歳未満であり、おもな就労の理由は、経済的要因、健康・生きがいの追求、社会貢献である。

都市部の高齡者は、地域コミュニティの公益活動に参加している比率が極めて高く、治安・交通管理、衛生・環境の維持、住民同士のトラブル仲裁などの活動にあたりると同時に、そこが主要な「社会参加・生きがいづくり」の場となっている。上海には約3,000の地域ボランティア団体があり、健康で若い高齡者がリーダー役を兼ねて多数参加している。彼らは、病弱な高齡者の面倒をみることは、自分の老後のための「保障」でもあると考えている。

### 老有所学 (生涯学習)

「老有所学」は、個人が健康維持や向上を図る際に、各種の知識を獲得する機会が保障されることを指す。

上海では、1985年から高齡者に対する教育システムが実施され、高齡化の進行とともに、急速に発展した。2002年現在、市・区レベルの高齡者大学は分校を含め3,564校で、学生数は30万人に達している。

2004年9月に上海市老齡委員会は、上海市科学技術協会と青少年らの協力を得て、高齡者のインターネットの学習・活用を進める「扶老上網」(高齡者を手伝ってインターネットを使わせる)プロジェクトを開始した。このプロジェクトは、市内の約300カ所のインターネット・パーを利用し、3年間で10万人の高齡者がイン

ターネットの「買い物、情報検索、ゲーム遊び」等の機能を上手に使えるようにすることを目標としている。

### 老有所楽 (趣味・娯楽)

「老有所楽」は、各種の文化、芸能活動への参加によって、精神的な充実感が得られることを指す。

上海では、高齡者の余暇活動を豊かにするため、「近くて便利」という原則に従って、各種の高齡者活動室が約13,000カ所設けられている。そこでは高齡者の半数近くがスポーツ・運動に親しんでおり、また演劇・音楽等、芸術分野の活動も、高齡者自身が組織する団体によって推進されている。

1997年に実施された「上海市世代関係と家族互助調査」によると、65歳以上の高齡者の余暇の楽しみ方は、「テレビ・ラジオの視聴」84.8%、「散歩・街めぐり」70.3%が上位を占め、「体育運動」48.3%、「本・雑誌・新聞を読む」44.3%、さらに「碁・将棋・マージャン・トランプ」「映画・地方劇の視聴」などが続く。

上海市統計局が2003年に実施した65歳以上の高齡者を対象とする調査によると、「現在の生活を愉快と感じますか」との質問への回答は、「愉快」57%、「普通」34.8%、「不愉快」8.2%であった。

### 最後に

中国、日本は一衣帯水の隣国で、文化、伝統などに共通するところが多い。経済成長、出産意識の変化につれ、日本と同様に、中国も多産多死から少産少死への人口転換を実現した。両国の高齡化の状況には差異があるが、人口高齡化および高齡者の社会保障や福祉に関する対策については、よく似た現状がある。

中国は経済成長が不十分な時期に高齡化社会を迎えたが、日本における高齡化対策の経験や教訓を真剣に受けとめ、国情に合った社会保障制度と高齡者福祉システムの構築に努力する次第である。